

# あなたの家を感じる熱意が

ヨハネ 2 : 13 - 22



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年3月7日

大齋節第3主日

上野聖ヨハネ教会にて

「ユダヤ人の<sup>すぎこしさい</sup>過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。」ヨハネ 2:13

イエスは弟子たちと一緒にエルサレムに行かれました。過越祭の礼拝に参加するためです。エルサレムの神殿は神の家と呼ばれてきました。神の家は祈りの家。人々の生活と信仰の拠り所でした。

詩編にはエルサレムへの巡礼の歌がいくつか収められています。そのひとつにこんな言葉があります。

「主の家に行こう、と人々が言ったときわたしはうれしかった。」122:1

主の家に行くことは喜び。神を礼拝することは幸せ——その思いが歌われています。

このエルサレムの神殿には、イエスは子どもの頃から毎年、過越の祭のときにナザレの町の人々と一緒に来られていました。

主イエスが 12 歳の過越祭のときも、ナザレの村の人たちと一緒に来られました。それが終わっての帰り道、両親はイエスがいないことに気づき、非常に心配してエルサレムに引き返したところ、イエスはこの神殿の境内で聖書の学者たちと語り合っていました。母マリアが「どうしてこんなことをして心配させ

たのか」と尋ねるとイエスは、「<sup>ぼく</sup>僕が僕のお父さんのところにいるのが分からなかった？」と答えられました。神は自分のお父さん。エルサレムの神殿はイエスさまにとって自分のお父さんのところだったのです（ルカ 2：49）。

お父さんのところ、神の家は、真心からの祈りと平安の場所であるはずでした。

さて、あの 12 歳の時からおよそ 20 年たって、同じ過越の祭の礼拝のために、イエスは弟子たちと一緒にエルサレムに上り、神殿の境内に入って来られました。その時、イエスが見られたのは、あるまじき光景でした。祈りとは正反対の現実です。そこにあるのは喧噪と、人々の欲望の渦巻きです。神を崇めるのではなく、神を利用して自分の権威を高め、自分の利益を増し加えようとする人たちがそこを支配していました。人々の信仰を利用して、悪どい商売がなされているのです。

祈るために来た人、神の救いを求めて来た人たちには、その場所がありません。イエスのうちに悲しみが湧き溢れ、憤りが燃え上がりました。ここは神の家、祈りの家なのです。それなのに自分の利益をむさぼる者たちの巣窟になってしまっている。

「イエスは神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、

座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。『このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。』ヨハネ 2:14-16

イエスは乱暴な振る舞いをして、境内から商売している人々を追い出されました。

その振る舞いを見ていたイエスの弟子たちは、聖書の言葉を思い出しました。

「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」詩編 69 : 10

「あなた」とは神のことです。神の家を思う熱意が自分の中に燃えて、自分を食い尽くす。詩編の作者は自分の激しい思いを歌っています。イエスのうちに神と神の家を愛する情熱が燃えて、イエスは自分を焼き滅ぼしてしまわれる——弟子たちは、イエスのこの振る舞いを見てそう感じたのです。

弟子たちはイエスの嘆きと憤りを見ました。イエスは人々のために、どんなに祈りの場所を、祈りの空間を、祈りの家を求めておられることか。

「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」ヨハネ 2 : 18

祭司長や律法学者、ファリサイ派の人々がイエスを問い詰めようとします。こんなことをしでかすとは、お前が正しいという証拠を、目に見える証拠を示せ、というのです。

「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』それでユダヤ人たちは、『この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか』と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。」ヨハネ 2:19-21

ちょっとわかりにくいかもしれませんが、これがヨハネ福音書の不思議さであり、また魅力です。

### 「この神殿を壊してみよ」

目の前のエルサレム神殿を壊せ、とイエスが言っていると人々は聞いたでしょう。けれども実は、イエスは「この神殿」と言われたとき、**ご自分の体のこと**を言っておられた、というのです。つまり「わたしの体を壊せ！ わたしの体をつぶして滅ぼせ！」

どういふことでしょうか。

もうこのエルサレム神殿は、神と人々を結び合わせ、交流させる場所ではなく、神と人々の間を遮断するものになってしま

っている。目に見えるこの神殿ではなくて、神と人とが出会い交流するほんとうの神殿、ほんとうの祈りの家がなければならない。自分が人々のために祈りの家になろう。そのために命を投げ出そう。そうイエスは言われたのです。

**「この神殿を壊せ。三日で建て直す。」**

この神殿とはイエスの体のことでした。わたしの体を滅ぼせ。三日目にわたしはよみがえる。

イエスはこのとき、やがて来たるべきご自分の死と復活のことはっきり予感してそう言われたのです。わたしが死んでよみがえるとき、わたしがみんなのために神殿となろう。わたしがみずから、みんなの祈りの家となろう。神の命をわたしがみんなに提供しよう。

イエスはみずからわたしたちの祈りの家となって、わたしたちの祈りを集められます。このイエスをとおして、わたしたちの祈りは神に届き、イエスをとおして神の愛と命はわたしたちに注がれます。ここに神の国が始まります。

祈ります。

主イエス・キリスト、あなたが、わたしたちの祈りを集めてくださることを感謝いたします。わたしたちだけではなく、病

気や高齢のゆえに、ウイルスの危険のゆえに、あるいは何かの  
つまずきのゆえに教会に来ることのできない人たちの思いも、  
あなたは集めてくださいます。10年になろうとする東日本大震  
災の犠牲者、被災者の方々の思いも、あなたが集めてください。  
どうかあなたが、わたしたちと人々の祈りの家となってくださ  
い。アーメン